

資料 2 - 2

2018年2月7日

環境教育等支援団体の指定を 受けて見えた可能性と課題

NPO法人 自然体験学校

見る観光から体験型に！

体験観光は新たな投資がいらない → **急激に増加**

広島県の修学旅行の受入れ数

平成	5	6	7	13	20	27
万人	143	136	97	70	55	68

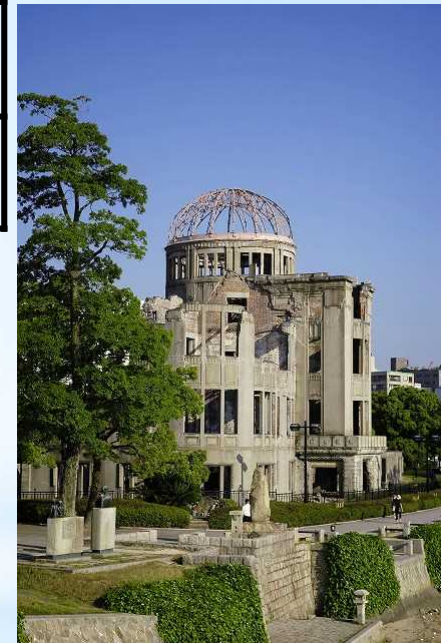
別府温泉 ピーク時150万人の修学旅行
→ 平成27年宿泊数 **4,839人！**

長野県小布施町の一般観光客の推移
北斎館、岩松院、日本あかり博物館等

平成 9年に 946,533人

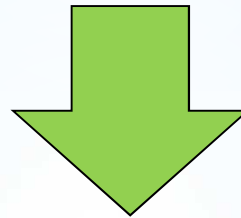
→ 平成28年には 274,574人

★ **どこの観光地も気が付いた時には手遅れ！**



体験観光の現状と必要性

15年前までの観光は、
「見る」「食べる」「遊ぶ」「買う」



今は「体験する」「交流する」「学ぶ」
若い女性は、それに+癒し+撮る！

一般旅行も企業研修も**体験型**

自然体験、環境教育等の提供する側の問題

○マニアック過ぎて一般向きではない事が多い。

→ そのため、一般の人が入りにくい。

○すべては、自分達だけで完結している。

→ 変わりがきかない。

○ボランティア的要素が高く儲ける仕組みがない。

→ マネジメントがない所が多い。

○安全管理の意識が低い。

→ 救急法、保険の認識のない所もある。

学校や旅行会社などと契約できない。

業界が保守的で仲間意識が高い！

○自然体験活動推進協議会(CONE)からNEALへ

→ **何も意見を聞かれず、制度が変わっていく。**

○都市圏にある、団体が主体。

→ 地方には、**情報が回らない。**

→ そのため、後回しになる場合が多い。

○研修生制度という名の無償アルバイトで徒弟制。

→ そのため、マネジメントのない負の連鎖。

○補助金等の依存度が高い。

体験観光の現状

国内での**体験観光事業者は1万軒**を超えていると
言われています！

それだけ**観光客のニーズ**があります！

○第5回自然学校全国調査2010

調査報告書から

アンケート回収数 3966中

1位沖縄県(369)、**2位長野(184)**、**3位群馬**
(179)、**4位新潟(178)**、**5位北海道(170)**
6位岐阜(164)、**7位神奈川(158)**

体験観光の現状

しかし！

日本全国の自然学校の収益は・・・
年間**100万円以下**の収入事業者は、
42.8%である！

NPO法人や民間だと、**500万円以下**を含めると
67.8%となっている。

補助金等を活用している、NPO法人では**23.7%**、
任意団体では**27.4%**と依存度が高い。

運営体制や組織について

○体験観光や体験学習を実施する場合

→観光協会と役場が運営

→2～3名の自然学校スタッフとボランティアが
運営

→知識は高いがリスク管理や資格取得者が少ない。

そのため、学校などの大きな団体の運営ができない。
または年間何度も受けられない。

→当団体では、住民が有償でインストラクターになる。

学校の受入れをすることで感じる事

○学校の先生の自然体験不足

- **安全管理や安全指導に対する知識不足**
(注意を聞かない、ケガをする等)
- **救急法などの危険予知知識が少ない**
(何かあると過剰に反応する、手を出せない)
- **自然体験活動の知識や経験不足**
- **自然や環境に対する理解不足**
(毒を持つ生物、草花を取る等)

安心・安全の根拠をしっかりと作る

体験学習・教育民泊・体験観光・環境学習において、**安心・安全**は絶対に必要な事項である。

また、教育基本法、学校教育法の改正により、体験活動やグリーン・ツーリズムの需要は今後も増えていく事が予想される。

そのためには、下記の事項が重要となる。

- ・救急蘇生法
- ・リスクマネジメント
- ・法令
- ・保険の知識

第2部

沖縄県八重瀬町の取り組み

誰も知らない八重瀬町の位置



沖縄県本島では、大半が那覇から北へ行く傾向にある。

6年前までは観光客はゼロの町で全国的なアンケートでも県内で八重瀬町は知名度がほとんどない。

資源を探す



ホロホローの森

玻名城の里ビーチ



資源を探す



富盛の大石獅子



地域住民がインストラクター

地域住民に3泊4日の自然体験活動
指導者養成講座を実施

→10回開催して**200名(稼働100名)**

認定救急法受講者は、**800名**

民泊勉強会は、**昨年35回**



民泊について

- 民泊**
- はじめは地域の小規模小学校で練習
 - 2年後、いきなり180名の神奈川県の高校
 - 勉強会で、料理メニューの統一
 - アレルギー、防災、危険生物、食品衛生等



民泊でも安心・安全は必須！

受入れ家庭には、ほぼ毎月勉強会を開催しています。事例として受入れ後の反省会
インドア体験・まち歩き・料理・食品衛生
防災訓練、医師によるアレルギー勉強会
などの実施しています。



アレルギー勉強会



料理勉強会



救急蘇生法



海岸勉強会



これまでの沖縄校の体験実績と予測

平成24年に事業開始

平成24年	約	2,400名
平成25年	約	11,000名
平成26年	約	15,000名
平成27年	約	21,000名
平成28年	約	45,000名
平成29年	約	46,000名

有料体験実数

沖縄には、なぜこんなに来たのか？

**体験学習・教育民泊・体験観光・環境学習
すべて受け入れ体制の**

安心・安全

**人 → 資格、スキル、知識、技術
体制 → 緊急連絡網、保険、責任者**

プログラム化と商品化！

プログラム化とは

**必要備品、安全対策、フィールドマップ、
事前計画表、説明書(マニュアル)、
対応保険の整備など**

商品化とは

**価格、時間、1回の対応人数、保険、実施可能日・
季節、必要備品など**

プログラムは、**地域の方たちと作り**

→ **地域住民の産業や生活の体験**

→ **実証検証を実施** → **商品化**

指導者は、**有資格者中心**に、**無資格サポーター**と連携して受入れ

→ **通年体験の受入れ体制**

教育旅行は、**体験・民泊の組合わせ**で体験

→ **地域全体で受入れ** → **地域全体で儲ける**

地域連携 モデル図

